

(単位:千円)

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比増減	分析・評価	
正味財産増減計算書	(一般正味財産増減の部)					【一般正味財産増減の部】	
	経常収益		121,163	121,985	139,133	17,148	(基本財産運用益) 基本財産運用益の減少については、債券売買の差益収入の減(55,255千円)が主な要因である。
		基本財産運用益	59,485	92,371	60,932	△ 31,439	(受取寄付金) 受取寄付金の増加については、栽培に係る経費の一部を支払うため特定資産である栽培漁業推進積立資産を取り崩し指定正味財産より振り替えたことによる増(30,000千円)が主な原因である。
		特定資産運用益	2,015	2,553	3,105	552	
		受取会費	0	0	0	0	
		事業収益	0	0	0	0	
		受取補助金等	0	0	0	0	
		受取負担金	0	0	0	0	
		受取寄付金	34,895	2,596	41,278	38,682	
		その他の収入(受取利息収入等)	24,768	24,465	33,817	9,352	
		経常費用	132,405	120,028	116,693	△ 3,335	
		事業費	126,014	114,073	111,659	△ 2,414	
		管理費	6,391	5,954	5,034	△ 920	
		評価損益等調整前当期経常増減額	△ 11,242	1,957	22,440	20,483	【指定正味財産増減の部】 (基本財産運用益) 基本財産運用益の減少については、債券売買の差益収入の減(55,255千円)が主な要因である。 (基本財産評価損益) 基本財産評価損益の増加については、令和4年度に時価評価により計上した評価損(472,076千円)と、令和5年度に時価評価を行い計上した評価損(255,854千円)との増減差(216,222千円)によるものである。 (特定資産評価損益) 特定資産評価損益の増加については、令和4年度に時価評価により計上した評価損(15,440千円)と、令和5年度に時価評価を行い計上した評価損(4,070千円)との増減差(11,370千円)によるものである。
		当期経常増減額	△ 11,242	1,957	22,440	20,483	
		経常外収益	0	0	0	0	
		経常外費用	△ 996	0	0	0	
		減免損	0	0	0	0	
		過年度損益修正	△ 996	0	0	0	
		その他経常外損失	0	0	0	0	
	当期経常外増減額	996	0	0	0		
	当期一般正味財産増減額	△ 10,246	1,957	22,440	20,483		
	(指定正味財産増減の部)						
	基本財産運用益	59,485	99,012	54,445	△ 44,567		
	基本財産評価損益	△ 185,544	△ 472,076	△ 255,854	216,222		
	特定資産運用益	2,015	2,553	3,105	552		
	特定資産評価損益	△ 4,009	△ 15,440	△ 4,070	11,370		
	一般正味財産への振替額	△ 96,395	△ 97,520	△ 105,316	△ 7,796		
	当期指定正味財産増減額	△ 224,448	△ 483,471	△ 307,688	175,783		
	正味財産期末残高	6,637,264	6,155,749	5,870,501	△ 285,248		

※単位未満は四捨五入を原則としたため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。